



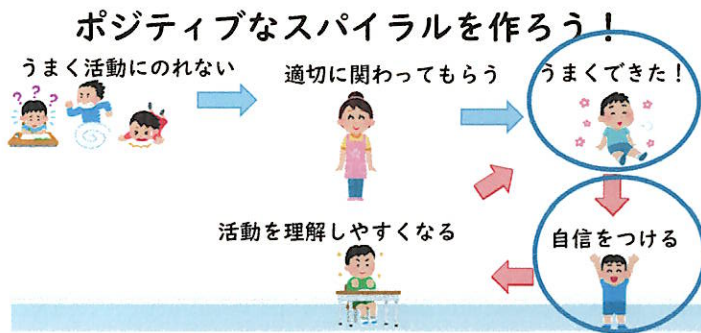
# さゆりっ子

No.10

文責 若林一成

## 「十人十色のよりよい成長」 ～子育てフォーラム 倉田洸幸先生の講演より～

1 / 16 の園のホームページでも様子をお伝えしましたが、もう少し補足したいと思います。



取りあえずでいいので成功体験ができるようにしましょう。そのことによる「自信をつける」ことがとても大事になります。『できたけど、しんどかったな…』と思っているようなら「×」です。このころの子どもは気持ち一つで「できる、できない」が大きく変わってきます。子どもの気持ち（モチベーション）を高めるかかわり方を考えていきましょう。

そもそもよりよい成長って？

- ・心の成長
- ・体の成長
- ・遊びを通じた成長
- ・それぞれの特性に応じた成長
- ・発達課題を達成する成長



どうすれば？

- ①その子の特徴を理解する
- ②その子に適した関わり方をする
- ③成功体験が積めるようサポートする
- ④自信になる声かけをする



<②に関わって>

②その子に適した関わり方をする

- ・その子を前向きに動かす関わり方は？
- ・その子の足を引っ張る関わり方は？



視やかな口調で伝えた方が良いかも？  
うるさい場所だと集中できないかも？  
言って聞かせるよりも、見せた方がわかるかも？  
など



②その子に適した関わり方をするでは、「〇〇すれば、伝わるはずだ!」と一方的に思い込むのは「×」です。①のその子の特徴を理解した上で適した関わり方を考えていくことが大事です。「言葉が苦手な子」には「イラスト等の視覚も利用する」と実際にやってみて、有効な方法を探っていきます。そして、その子の苦手さにより、支援の度合いも変わってきます。

そして一番大事なものは「自信になる声かけをする」です。

- 1 すぐにほめる
- 2 「どの行動がよかったのか」を具体的に伝える
- 3 とりあえずその子の行動を言う

最終的にどのような形であれ、「ほめてあげればOK!」です。その年齢でないと育たない土台があります。その土台をしっかりとしていくためにも「自信」ですね。

## <事例1>

### その子の立場で観てあげる

「わがままを言っている」ように見えて実は「困っている」のかも…?

事例 保育園年少のAくん

製作活動(折り紙、お絵描きなど)の時間になると、すぐ立ち歩いてしまうAくん



どうしたの?少しだけやってみようよ

やだー!めんどい!

(引継ぎ情報にあった「落ち着きのなさ」のせいなのかな…)



### その子の立場で観てあげる

事例 保育園年少のAくん

製作活動(折り紙、お絵描きなど)の時間になると、すぐ立ち歩いてしまうAくん  
病院にて…



この子もしかして、かなり手先が不器用かも…  
「やること」を覚えてるのが苦手かも…

支援例:

- ①手順を書いてあげる
- ②最初の折り目や切り込みだけ先生がやってあげる



### その子の立場で観てあげる

事例 保育園年少のAくん

製作活動(折り紙、お絵描きなど)の時間になると、すぐ立ち歩いてしまうAくん



この子は最近「お兄さん」というフレーズをよく使うなあ

支援例:

- ①手順を書いてあげる
- ②最初の折り目や切り込みだけ先生がやってあげる
- ③本人が喜ぶ褒め言葉で声をかけてあげる



ことがない。困ったことがあっても、やりたいと思っている。100%の子がやりたがっています。(倉田Tの思いが伝わってくる言葉でした。)

## <事例2>

事例 幼稚園年中のBくん

集団活動が始まると部屋から飛び出してしまうBくん

仮説



活動はやりたい!  
でもじっとしているのは  
我慢できない  
→飛び出してしまう



先生が追いかけてくる  
→おいかけっこ(遊び)の  
気持ちになる  
→活動のことは一旦忘れる



先生の説明がよくわ  
からない  
時間が過ぎる  
→気付いた頃には、終  
わってる

事例 幼稚園年中のBくん

集団活動が始まると部屋から飛び出してしまうBくん



支援例:

- ①追いかけるときは淡々と追いかける  
(それ自身が遊びにならないように)
- ②活動に促すときは端的に同じ言葉を繰り返す  
(〇〇をしてお部屋に戻ろう)
- ③お部屋に戻って来た時に楽しさを強調する



活動をクラスメイトと一緒にできる時間が増えた  
→「活動」へのモチベーションが上がり飛び出すことがへった

頼関係が一番です。)そしてどの過程も「急に多くを求めない!」スモールステップの精神で取り組むことが大切です。

今回のセミナーを通して今まで以上に「少しずつ、少しずつ」という言葉が好きになりました。来年度は多くの方に参加いただける機会を設けたいと思っています。よろしくお願いします。

大人が「困る」ことは、子どもたちが「困っているから」と受け止めています。

年少さんは「〇〇ができない。」とは言えません。その結果、シンプルに「やりたくない。」と言ってしまいます。

活動できるのなら誰もがやりたいと思っている。本当にめんどろだなどと思っている子は今までに見た